いなほ

稲積神社社報
第45号

平成28年　大祭号

祝祭日には国旗を
掲げましょう

初代宮司の歌碑

時の尊さ

宮司　根津泰昇

本年は神社本庁が設立七十年を迎えます。又山梨県神社庁も設立七十年の佳節の年でもあります。戦前は国家神道として国、県、市、村が護持運営を担っていましたが、戦後連合国総司令部は日本改造の一環として、神道指令を発し、神社を国家からの分離を命じました。それから七十年の間、人から人へ、心から心を繋ぎ宗教法人として歩んで参りました。

当神社の外郭団体甲府伊勢講が半世紀を越え五十一年目を歩み出し、敬神婦人会は設立二十年を迎えました。このように、何周年、何年、何歳と歳を迎える事は、一年一年の年輪を重ねてきた証であります。当初とは時代の変遷により状況が異なっております。先人達がその時代をしっかり歩み、繋いできたからこそ、本年の節目を迎えられたのであります。節目を迎える度思うことは、今生かされている事の尊さと、今その時に関わっている事がどれ程重要な一時であるか痛感いたします。

私達は日常生活を極普通に、当たり前のように営んでいますが、この日常生活が未来に向かい、どれだけ意義ある日々なのか認識する必要性があります。今、生かされている事は、先人からの意志を受け、苦楽があろうとも世の為、人の為に歩む責任があり、次の時代へと橋渡しをしていく役目でもあります。

当神社が鎮座する太田町の自治会有志の方々により国旗掲揚運動を推進しております。昭和中期頃までは祝祭日には家毎に日の丸国旗を掲揚していました。しかし、その後は徐々に掲揚する家が減少してきました。そこで有志の方々が日本の文化として、日本の心を伝え合おうと国旗掲揚運動を推進しています。この行動が日本の心を次の時代へと繋ぐ行動と感じています。

日本文化、心を次世代に繋ぎ、十年後には素晴らしい社会環境になっているよう神社に関わる方々と共に歩んで参りたいと思っております。

東日本大震災五年慰霊祭に参列して

総代会長　小尾　武

東日本大震災の発声から五年となる三月十一日を前に、神道政治連盟国会議員懇談会が主催する東日本大震災物故者慰霊祭が、宮城県名取市の慰霊碑前広場で三月六日に執り行われた。慰霊祭には議員懇談会から中曽根弘文代行や山谷えり子、有村治子両副幹事長などが参列。神政連や県内神社の関係者、佐々木一十郎市長、地元住民など計三百人が祭場に参集した。

祭典では、神政連宮城県本部本部長を務める宮城県護国神社の田中光彦宮司が斎主を奉仕。神事の後、長曽我部会長と田中総長、大友氏の三人が挨拶に立った。この中で長曽我部会長は天皇陛下が昨年の追悼式で述べられた「これからも国民皆が心を一つにして寄り添って行く事が大切。教訓を決して忘れる事なく子孫に伝え、より安全な国土を築くべく努力を続ける事が重要」とのお言葉を紹介。陛下の大御心に従い、被災者に安寧の日々が戻るよう尽力する旨を述べた。

神社本庁統理の代理として挨拶した田中総長は「地域の中核にある氏神の復興、祭事の再興こそが地域の精神的支柱となる」旨を披瀝。「ひと時たりとも被災者の方々の悲しみを忘れる事のないよう天皇、皇后両陛下の大御心に寄り添いながら復興にあたりたい」と語った。

また娘を津波で失った大友氏は「閖上の町の多くの被災地も復興途上にある。私達は亡き人々の為にも、またこれからの人々の為にも皆で力を合わせ、あの元気な町が再興されるよう進んで参りたい。未だ肉親の元に帰れない御霊が一日も早く懐かしい人の元で休まれるよう念じてます」との思いを語った。

慰霊祭の後開かれた連絡会では、稲田朋美自民党政務調査会長、佐々木市長も挨拶を述べた。この中で中曽根会長代行は、大震災から五年が経とうとする中、今尚帰還の見通しが立たない避難者が十七万人以上にのぼる事を説明。「この様な悲しみが繰り返される事のないよう、震災の教訓を後世に伝え、災害に強い強靱な国造りを進めていかなくてはならない」との決意を述べた。

また安倍総裁からの挨拶文では、震災直後から神社関係者が慰霊祭の斎行を含む支援活動に乗り出した事への謝意を表明。慰霊祭と連絡会は、平成二十四年三月十日にも福島県相馬市で行われており、今回で二度目となる。

正ノ木祭りを迎え

正ノ木祭り実行委員長　藤本　浩

五月晴れの空に鯉のぼりが泳ぐ良い季節となりました。

さて、今年も正ノ木祭りを迎えることとなりました。五月二日の前夜祭、三日例大祭、四日二之祭、五日三之祭、成就祭と四日間にわたる祭典で、期間の長いことでは全国的にもめずらしく、江戸時代から続くまさに歴史と伝統のある祭典であり、県内はもとより近県からも多くの参拝者が訪れるお祭りであります。

昨年は、正ノ木祭りのメイン会場となる遊亀公園の中も甲府市役所の新庁舎が完成したことにより、公園内の東南方向にあった市役所の出先機関も整理され駐車場となり、スペースが広がったことから、多くの露店が遊亀公園内を中心とした場所に出店を希望し、遊亀通りに出店した場合は交通規制が解除される度に片付けなければならない手間を嫌い、数店の出店のみとなり、祭典のための通行止めの交通規制の是非が課題となってしまいましたので、警察をはじめ関係機関等このような現状を踏まえて総合的に検討してまいりたいと思います。

また、昨年は最終日の五日に遊亀公園付近において、暴徒化した少年等の不法行為により、二少年が逮捕された事案が発生してしまい、翌日新聞報道されるなどせっかくのお祭りムードが台無しになってしまいました。

実行委員会としましても稲積神社とその外郭団体、地域住民の方々、甲府商工会議所をはじめとした各種機関、団体等の協力をいただきながら祭典に訪れる人達が安全で安心したお祭りが楽しめるよう各種イベントを開催して正ノ木祭りを盛り上げてまいりたいと思っております。

次第

当日早旦社殿を装飾す
時刻　参列者所定の座に著く
　是より先手水及修祓の儀あり
時刻　宮司以下祭員辛櫃を奉じて参進
　是より先手水の儀あり
次　宮司以下祭員祓所に著く
次　宮司以下祭員修祓
次　宮司以下祭員参進所定の座に著く
次　宮司一拝
　諸員之に倣う
次　宮司御扉を開き畢りて側に候す
　此の間奏楽警蹕　諸員磬折
次　禰宜以下祭員神饌を供す
　此の間奏楽
次　全国稲荷会の幣帛料を奉る
次　宮司祝詞を奏す
　此の間諸員磬折
次　宮司玉串を奉りて拝礼
　禰宜以下祭員列拝
次　参列者玉串を奉りて拝礼
次　宮司遷御祝詞奏す
次　神輿に遷御
　此の間奏楽
次　宮司発輿祝詞奏す
次　宮司一拝
　諸員之に倣う
次　宮司以下退出

平成二十八年度 正ノ木例大祭神賑行事（予定）

五月二日(金)
・献木祭　午前十時
・前夜祭　午後六時
・飯野のり子歌謡ショー　午後七時～八時三十分

三日(日)
・例大祭　午前十時～
・宮神輿渡御　午前十一時
　宮神輿　子供神輿
　町内神輿
　甲府商工会議所山車
・宮神輿還御　午後三時三十分頃
※甲府囃子は宮神輿の近くで演奏あり
・奉納相撲大会　午前十一時～午後三時
・バザー　正午～午後一時
・崇敬青年会主催行事　午後五時三十分～八時
（神部冬馬コンサート他）

四日（月・祝）
・二之祭　午前九時～
・神社舞台　午前十時～午後八時
（ご当地アイドル
「FUJI SAKURA塾」
平元会　三味線演奏　他）

五日（火・祝）
・三之祭　午前九時～
・神社舞台　午前十時～午後八時
（バンド　さ　しょうのき
ご当地アイドル
「FUJI SAKURA塾」
童謡　ちゃんこの会　他）
※三日～五日「さるまわし」
随時開催
※詳しくは「稲積神社」を検索

我家の神棚祭り

窪川政富

稲積神社との出会いは、今は亡き母の心配性がきっかけでした。

ある日、韮崎の占い師を尋ねる途中、偶然稲積神社が目に止まりバスを降りたそうです。わらをも掴む思いで心の内を話すと、とても親身に話を聞いて頂き安心したと話していました。

この出会いから、事ある毎に先代宮司様に相談するようになりました。

私達の結婚式も境内に創設された参集殿で挙げさせて頂きました。その後三人の子供にも恵まれ、三人共、宮司様に名付けて頂きました。

我が家は建設業という仕事柄、何かにつけ不安と背中合わせです。

宮司様に教えて頂いた、旧暦のお正月である二月の吉日に現場の安全、家内安全を祈願し、毎年お祓いをお願いしています。その際、宮司様に今年の方位や動向を伺い、参考にさせて頂いております。今日まで無事に仕事を続けてこれたのも稲積神社のおかげと大変感謝しております。

又、我が家では月初に神棚のお米・お酒・お塩・お榊を新しく取り替え、前のお酒・お塩は敷地内に「祓い給え、清め給え」と唱えながらまいています。毎朝お榊の水を替え、お水を替えています。時には忙しく、神棚に向かえない時もありますが、ふと思い出し、神棚に手を合わせます。そうすると不思議と心が落ちつくのです。

宮司様にこんなうれしい言葉を言って頂きました。

「そのせいか、この家に入った感じがとても落ち着ける雰囲気がありますね。」と。

来る方にそんな雰囲気を感じてもらえる家でありたいと思います。

私は崇敬会に、息子は崇敬青年会に入会し、活動させて頂いております。数々の行事への参加を通じて、多くの方々との出会いがあります。崇敬会での出会いで、私の心は豊かになり、たいへん勉強になることばかりです。

これからもこの縁を大切に息子、孫の代へと末永く我が家の神棚祭りが続くことを心より願っております。

交通安全祈願祭の挙行

事務局長　保坂治彦

山梨県高速道路交通安全協議会（会長石原行彦）では、一月十五日、稲積神社において山梨県リニア交通局長、山梨県警察交通部長、高速道路交通警察隊長、中日本高速道路㈱八王子支社長等の来賓を招き、役員、会員など総勢九十名が出席し、盛大に『平成二十八年新年交通安全祈願祭』を根津泰昇宮司様のお導きの下で挙行しました。

この交通安全祈願祭は、毎年一月に高速道路に関連する機関、団体の方々に集まっていただき、その年の高速道路における交通事故防止と交通安全を祈願しているものです。

当協議会は、高速道路における交通安全思想を普及すると共に交通事故の抑止を図ること等を目的として昭和五十七年に結成され、今に至っております。現在は三〇〇余の会員を擁し、春秋の全国交通安全運動をはじめ年間を通じ、山梨県警察、中日本高速道路㈱をはじめとする関係機関、団体と協力し、高速道路サービスエリアにおける交通安全キャンペーン活動を中心に取り組んでいます。

平成二十七年中、県内高速道路における交通事故の状況は、死亡事故は前年同数の四名でしたが、人身事故はマイナス九件の八十七件、負傷者数はマイナス八名の百六十六名、物件事故はマイナス百四十三件の九百九十四件といずれも減少しましたが、これも平素からの地道な活動の成果が実ったものと考えております。

ご承知のように高速道路は物流システムを支える巨大インフラとしてだけでなく、人的交流をはじめ、文化、情報等の流通にも大きな役割を果たしていますが、反面、一瞬の不注意による交通事故被害もその高速性から極めて甚大なものになります。

現在、山梨県警察をはじめとして高速道路における安全運転のため、高速道路の利用者に対し、「しっかり前を『見る』」「車間距離を『とる』」「安全速度を『守る』」の『三るーる励行運転』を呼びかけています。

来春には、中部横断道路の全面開通により東名高速道路への接続が容易になり、より利便性が高まりますが、是非『三るーる励行運転』に務めていただきたいと思います。

恵方参り

常若会　河村由里

二月十四日、十五日と稲積神社恵方参りの旅に初めて参加させていただきました。

今年の恵方は南南西。静岡方面に向かい、参加者八十一名であいにくの冷たい雨が降る甲府を出発しました。雨はその後も降りやまず、益々嵐のような兎模様に、何て雨男と雨女が多いのでしょう？と思いましたが目的地の富知六所浅間神社に到着して、参拝が終る頃には小降りになり、皆様の日頃の行いの良さを感じました。

昨年秋に完成したという新築の本殿は木の良い香りに包まれ、清々しい雰囲気の中お参りさせていただきました。

昼食の後に世界遺産の韮山反射炉を見学しました。近代鉄鋼業発祥のシンボルとして国指定史跡にもなっているとのことで、日本のものづくりの素晴らしさを垣間見ました。

その夜の宿は西伊豆クリスタルビューホテル。すっかり天気も回復し、海に沈む夕日はとても美しく感動しました。

翌十五日は土肥港から清水港までフェリーでの移動です。昨日の悪天候で海が荒れていたせいか、船酔いした方が多くいらしたようでした。

陸に上り添乗員さんも元気になった頃、静岡浅間神社に到着しました。

神部神社・浅間神社・大歳御祖神社の三社を総称して「おせんげんさま」と呼ぶそうです。正式参拝の後に宮司様のお話とお神酒をいただき、大拝殿や社殿を見学しました。

ここにも、現在に続く数々の職人技が息づいていました。

立春を過ぎた新たな年の初めに、恵方参りができてありがたく思います。一年健やかに過ごせることと思います。ご計画くださいました宮司様はじめ関係者の皆様に心から感謝申し上げ報告とさせていただきます。

靖国神社参拝の旅

伊勢講々元　小野　忠

山梨県神道政治連盟（総代会長小尾武様が副本部長を務める）が主催した靖国参拝と東京ソラマチ見学の研修が桜が満開宣言が出た三月三十一日（木）に開催されました。当神社から六名参加し県全体で一七八名がバス四台で靖国神社に参拝しました。参拝には県選出の自民党議員の先生方のほか参議院議員全国区山谷えり子前国務大臣も御参集頂き英霊の御霊に参拝致しました。明治維新以降の国事で尊い命を落された二四六万余りの霊を合祀し事績を後世に伝えている靖国神社、間近での参拝に身が引き締まる思いでした。

私も伯父二名が昭和十九年と昭和二十年に戦死し靖国神社に祀られている為に参拝のたびに二名の冥福を祈っています。国の為に命を捧げた人々のお陰様で、今の平和な日本が有り、私達は豊かさの中での生活に馴れ、ともすれば忘れがちになります。でも忘れてはならない事です。

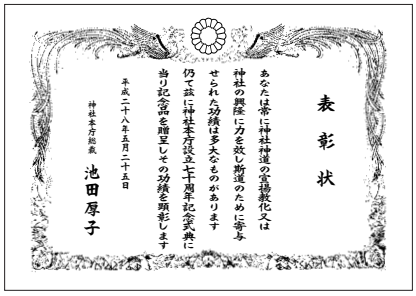
今生かされている私達に残された使命は、このような体験を風化させることなく、正しく継承していき戦没者すべての人々に慰霊することを忘れてはいけないと思いました。

その後、私達甲府のバスは東京ソラマチに移動し七Fの江戸味楽茶屋そらまち亭にて昼食をとりその後ソラマチ内の散策をし思い思いのおみやげを購入し一路甲府に向け帰路に就きました。充実した一日でした。ありがとうございました。

神社本庁設立七十周年記念表彰受賞者

稲積神社責任役員
齋藤　茂　様

第六項
教化又は神社の興隆に功労のある者



表彰状

あなたは常に神社神道の宣揚教化又は神社の興隆に力を致し斯道のために寄与せられた功績は多大なものがあります
仍て茲に神社本庁設立七十周年記念式典に当り記念品を贈呈しその功績を顕彰します

平成二十八年五月二十五日
神社本庁総長　池田厚子

表紙説明

初代宮司興石守郷先生の歌碑です。先生は天保八年二月に北巨摩で生まれ、建岡神社神職興石森喜の養子となりました。堀秀成、落合直澄に師事し、国学を学び、明治八年一宮浅間神社に主典となり、明治十九年稲積神社神官に任ぜられました。後に伊藤学園の伊藤うた先生に依頼され現清和高校の初代校長に就任されました。

この歌碑は大正四年十二月建立ですので百周年を迎えました。この機会に甲府商工会議所の献木祭で榊を植樹し整備して参ります。

歌

うきをのみかぞへて
何かなげくらむ
たのしと思へ婆楽しからん

（悲しみや寂しさばかりを数えて嘆いて何になるというのか、楽しいと思いましょうよ、楽しい人生なのだから）

エコロビームによる歌碑の洗浄

～禰宜職を拝命して～

禰宜　根津佳明

今年は暖冬であった冬も過ぎ、桜の開花も例年より早まった。花冷えの日が続き、長い間私たちの目を楽しませてくれた桜満開な平成二十八年四月一日。稲積神社禰宜を拝命致しました。

これも偏に日々ご指導頂きました宮司を始め、神社に関わる皆様方のお陰と感謝しております。

これからはこの職に恥じぬよう、今にもまして神明奉仕・中執り持ちとして日々精進して参りますので変わらぬご指導ご鞭撻の程お願い申し上げご挨拶と致します。

新職員紹介

渡辺　僚

生年月日
昭和五十五年九月二十八日

趣味
釣り（ルアー）

抱負
私は、山梨で生まれ育ちました。一昨年まで東京都調布市に鎮座します布多天神社でご奉仕しており、この度、稲積神社で権禰宜としてご奉仕させていただく事となりました。これまで学び経験してきた事を活かし神社を一層盛り上げられるように精進していく所存です。どうぞ皆様のご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

奉納者

一金拾萬円
株式会社峰岸商会
代表取締役 峰岸　一郎様

神饌所・装束室雨どい工事
有限会社エルフハウジング
代表取締役 丹沢　孝雄様

歌碑洗浄
㈱やおき（エコロビーム）
代表取締役 藤本　恭司様

祭典行事暦（五月～十二月）

五月一日　月始祭
二日　献木祭
二日　前夜祭
三日　正の木祭例大祭
四日　二之祭
五日　三之祭
五日　成就祭
十五日　神恩感謝祭
二十九日　御田植祭
六月一日　月始祭
三日　月次祭
十五日　神恩感謝祭
三十日　夏越大祓祭
七月一日　月始祭
三日　月次祭
十五日　神恩感謝祭
十五日　瘡子社例祭
八月一日　月始祭
三日　月次祭
十五日　神恩感謝祭
九月一日　月始祭
三日　月次祭
十五日　神恩感謝祭
十月一日　月始祭
三日　月次祭
八日　金比羅神社例祭
十五日　抜穂祭
十一月一日　月始祭
三日　月次祭
十五日　神恩感謝祭
二十三日　新嘗祭
十二月一日　月始祭
三日　月次祭
十五日　神恩感謝祭
三十一日　年越大祓

安産祈願の歴

安産祈願は神様に参詣し懐妊の報告と無事出産を祈願する行事です。

戌の日が選ばれるのは犬が安産であったため犬にあやかって戌の日に祈願するようになりました。近年はご都合の良い日を吉日と定めお参りなさる方も多くなりました。

平成28年　戌（いぬ）の日カレンダー

5月	4日（水）赤口	16日（月）先勝	28日（土）先勝
6月	9日（木）先負		21日（火）先負
7月	3日（日）先負	15日（金）大安	27日（水）大安
8月	8日（月）赤口	20日（土）赤口	
9月	1日（木）友引	13日（火）友引	25日（日）友引
10月	7日（金）先負	19日（水）先負	31日（月）仏滅
11月		12日（土）仏滅	24日（木）仏滅
12月	6日（火）赤口	18日（日）赤口	30日（金）先勝

ご祈願のご案内（見守り石）

当神社でのご祈願は、どなたでもお受けになれます。

まず、社頭にて受付用紙に願事・住所・氏名をご記入の上、御神前にて神職の中執り持ちにより神様に願事をお聞きいただくご祈祷をいたします。

その後、境内の御神木の下に鎮ります「見守り石」に、ご本人様が手をかざし、一心に願いをかけ祈ることにより「見守り石」からの御力を授けられることでしょう。

大神様に感謝することにより、御力を戴き、日々がよりよい生活を営むことができますようにご祈願くださることをお勧めいたします。

みまもり石

初宮祈願

初宮祈願（お宮参り）は、無事出産を終えたことを神様に感謝、奉告をし健やかに成長することを祈り願う行事です。

伝統的には、男の子は生後三十一日、女の子は三十三日にお参りするのが習わしですが、現在では、お子様の健康、或はお母様の体調などにより、生後一ヶ月から三ヶ月位に行う方も多くなりました。

何れも、ご家族様の都合の合う日を選び、お参りされるとよいでしょう。

初宮祈願　授与品

稲積神社甲府伊勢講

深志神社参拝と立山黒部アルペンルート横断　黒部渓谷鉄道に乗る

立山をダイナミックに横断し、宇奈月温泉に宿泊する１泊２日の旅

今年の稲積神社甲府伊勢講千社参りの集いは、特別企画『立山横断と宇奈月温泉に泊る旅』を企画いたしました。長野県の扇沢より、富山県の黒部へ抜ける「立山黒部アルペンルート」をダイナミックに横断。

また、パワースポットで有名な「深志神社」へと正式参拝いたします。

ご家族ご友人皆様お誘い合わせの上、多数ご参加いただきますようご案内申し上げます。

◎旅行実施予定日：平成28年10月23日（日）～24日（月）

◎募集人員：120名（最少催行80名）　◎旅行代金：39,000円

◎行　程

月日曜	行　程	食事
10／23（日）	甲府各地 ＝＝＝＝《中央道～長野道》＝＝＝＝ 深志神社［正式参拝］＝＝＝＝ 扇沢駅 ＋＋＋＋＋ 黒部ダム・・・・黒部湖 ＋＋＋＋＋ 黒部平～～～～ 大観峰 ＋＋＋＋＋ 室堂［昼食］ ＝＝＝＝ 美女木 ＋＋＋＋＋ 立山 ＝＝＝＝ 宇奈月温泉（泊）	朝 ー 昼 ○ 夕 ○
10／24（月）	宇奈月温泉 ＝＝＝＝ 宇奈月駅 ＋＋＋＋＋ 欅平駅［散策］＋＋＋＋＋ 宇奈月駅 ＝＝＝＝ ＝＝＝＝ 宇奈月［昼食・海産物ショッピング］＝＝＝＝ ＝＝＝＝《北陸道～上信越道～長野道～中央道》＝＝＝＝ 甲府各地	朝 ○ 昼 ○ 夕 ー

※交通事情等の関係や参拝神社の都合により行程が変更になる場合もございます。

◎ご宿泊：10/23（日）富山　宇奈月温泉「延対寺荘」　電話0765-62-1234

◎添乗員が同行いたします。

敬神婦人会設立二十周年

会長　丹澤　起恵子

時が経つのが早く婦人会も二十年を迎えることになりました。格言の〝十年ひと昔〟と言いますが、早くもふた昔になり、記憶に乏しい私達ですが鮮明に覚えていることは、先代の成雄宮司様からの「敬神婦人会を立ち上げて欲しい」という強い希望により、横森会長の元、平成八年に設立が叶ったということです。現在会員数は五十余名おります。

行事としましては、正ノ木祭への協力、樽酒を参拝者に振る舞う行事が念願であった先代宮司様のご意思を大切に二十年間おろそかにしてはならないと、気持ちを引き締めて行っております。また、祭中のバザーも順調で売り上げており、関係各位のご協力、会員のご苦労により成果を上げております。一年に一度の研修会は、宮司様の講演、日帰りで神社・仏閣を巡り正式参拝などをしております。

敬神婦人会の全国大会には各地で開催される大会に参加させていただき、県の敬神婦人の方達と絆と和を共にする機会だと思っております。横森様、塩島様の後を引き継ぎ私も会長という大役を仰せつかり前会長様達に恥らうことなく、行事を全うし、これからも敬神婦人会を盛り上げていく所存です。どうぞ変わりなく皆様のご協力を宜しくお願い申し上げます。

新年会

武田八幡神社

正ノ木祭り　バザー開催

H８年４月	稲積神社敬神婦人会設立　会長　横森満洲子
H11年	講習会　牛乳パックのイス作り
H12年	参集殿トイレリフォーム奉納
H13年４月	稲積神社400年事業　神殿屋根竣工祭
７月	象さんのタオル作り
H14年３月	ハンカチのピエロ作り
H15年７月	料理教室
H16年	５円玉でカメの根付作り
H17年８月	ふくろう御守　講習会
H18年３月26日	敬神婦人会設立十周年記念式典
H19年９月	全国総代会応援　かき氷コーナー
H20年４月	会長　塩島はる子
７月	伊勢山皇大神宮参拝と中華街にて食事
８月	㈱板山松竹堂 板山和正氏講演「健康と美容」
H21年７月	寒川神社参拝　鎌倉散策
H22年７月	富岡八幡宮参拝　浅草散策
H23年４月	会長　丹澤起恵子
５月	東日本大震災の為バザーの売上より義援金へ寄付
７月	講演会　神社境内社について（宮司）
９月	箭弓稲荷神社　川口氷川神社参拝
H24年７月	武田八幡宮　建部神社参拝と壬生うどん
H25年５月	大神社展（東京国立博物館）
	ＮＨＫスタジオパーク見学
H26年５月	深志神社参拝と松本城、町並散策
H27年６月	靖国神社参拝と銀座散策

松本　深志神社　宮司様と共に

設立10周年記念碑建立

鶴岡八幡宮